

神の国にはいるには、心のバランス感覚 「心の貧しいもの 謙遜なもの」

ルカ14：7-23

■ 末席に座りなさい

イエス様は食事の席に招かれた人々が上座に座ろうとする様子をご覧になり、彼らにたとえを話されました。「婚礼の披露宴に招かれたときには、上座に座ってはいけません。」(8節) そして、招かれたなら、末席に座るようにと教えられます。「そうしたら、あなたを招いた人が来て、『どうぞもっと上席にお進みください。』と言うでしょう。そのときは、満座の中で、面目を施すこととなります。」(10節) 「面目を施す」とは、その人が本来あるべきことができるように整えてあげるといふ意味です。ここには深い意図が書かれています。それは、神様が本来その人があるべき場所に導きたいということをお伝えしているのです。「なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」(11節) また、食事をもてなすときには、金持ちではなく、貧しい人たちを招きなさいと言われます。

なぜ「貧しい人」が出てくるのでしょうか。貧しい人と自分を高くする人の違いは何でしょうか。謙遜にふるまっている人が聖書ではいいのでしょうか。彼らは自信がなかったので、自分で自分のランクをルール化することで意図を見失ったのです。目が見えない人は自分が盲目だと分かっています。だから目が見えない分、自分が歩く道を他のことで分かろうとしています。貧しい人は自分が貧しいことが分かっています。問題なのは本当は見えていないのに見えていると思っていることなのです。本当は分かっているのに分かった気になっていることなのです。

聖書は本質を見なさいと言っています。「義人の復活のときお返しを受けるからです。」(14節) 私たちは何を目的にいろいろな行いをしているのでしょうか。人はさまざまな場面で報いはどこにあるのかという感情が出てきます。しかし、お返し(報い)を受けるためにははいけないのです。

■ 宴会の出席を辞退した人々

ある人が神の国で食事をする人は幸いだと言うと、イエス様は、盛大な宴会を催した人のたとえを話されました。宴会に招かれた人は、それぞれ理由をつけて断り始めました。「畑を買ったから見に行かなければならない」これは畑を買ったことへの賞賛であり、名誉と地位を表しています。「五くびきの牛を買ったので試しに行く」これは物欲です。「結婚したので行くことができない」これは、関係・人の目線です。

人々はそれぞれ個人的な都合でせっかく用意してくださった宴会に出席しようとしなかったのです。名誉や地位、物、人の目線に目が向いている人は神様よりそれらを大切にしようとするのです。

■ 新たに宴会に招かれた人々

招かれた人々がみな断ったと聞くと主人は怒って、貧しい人、身体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人を連れて来させます。それでもまだ宴会には空席がありました。主人は街道や垣根のところに歩いて行って、無理にでも人々を連れて来させます。当時の宴会は、招かれた人が一人でも来ていないと始めないのです。全員を招いてから始めるというのは、まさしくこの地にイエス様が迎えに来るその時まで、招かれるべき人がみんな座るまで待っているということを表しています。福音の時代に皆さんのところに届いた理由はここにあります。「言っておくが、あの招待された人々の中で、私の食事を味わう者はひとりもいないのです。」(24節) とても厳しい話です。私たちはこのような弱さをいつももっているのです。

■ 心の貧しい者は幸いです

自分の問題が分かると、その人に大きな奇跡をもたらすと伝えていきます。私たちはこれを見失ってしまいがちです。心の貧しい人とは、自分の心が貧しいと知って、神様助けてください、私は今心が騒いでいますと神様を求めようとする人です。相手を怒ってはいけない、赦そうという柔和な者は、「地を受け継ぐ」のです。「私に義を教えてください。

ください。そしてその相手に憐れむ心を与えてください。私の心を清くしてください。」と神様を求める人が「天の御国」に招かれるのです。

あなたは、本当に「心の貧しい者」になれているでしょうか。自分の心の内に貧しさがあることを理解できているでしょうか。

■ あなたの価値は変わりません

一万円札は、ぐちゃぐちゃにしても踏んでも破っても価値は変わりません。すべての紙幣や貨幣には人の顔がついています。その人の称号、生き方にかけて価値が保たれているのです。あなたの価値は変わることはありません。それにもかかわらず、私たちは自分に何か不足していると価値がないと思ってしまう。弱さはあります。けれど、一部傷ついたからと言って、価値が変わるわけではないのです。

本来のその人の価値は神が創造しました。その人の人生が続く限り、踏みつけられても、人々がどう評価しても、変わることはありません。心の貧しい人は幸いです。なぜ上座に座りたいのですか。それは自分の価値が分かっているからです。

あなたはこの紙幣に顔がのるような生き方をしていますか。福沢諭吉や渋沢栄一はなぜ紙幣に顔がのったのでしょうか。それは、自らに与えられた価値を知って、その価値を表したからです。自分の価値を貫いた人は、この肖像にのせられて価値は変わらないんだという太鼓判を押しているのです。私たちは自分が分かっています。自分の問題・弱さが分かって、罪が理解できた人は、どのようにしたら神の栄光に生きられるのかが分かるのです。

しかし自分が分からなくて、立場を得ようとする人は、目の前に救いがあることや人生を豊かに変える方法が分かっても、目の前にある方法を選びます。それが「傲慢」です。不安だから、高ぶる必要があるのです。もし目線がずれているなら、戻してください。そして神様のもとに帰る必要があります。

■ 弱さを知って、本当の自分の姿を知る

イエス様は、傷つき捨てられ、ぐちゃぐちゃになりました。この一万円のように、でも価値は失われませんでした。彼はそのことを通して、すべてをもう一度得ることになりました。弱さと闘い、ゲッセマネに出て行って祈りました。「主よ、私からこの杯を取り去ってください。しかしあなたの御心のようにしてください。」と。だから傷だらけだった彼は、復活して本来の価値を多くの人にもたらす者になりました。この朝、ずれた目線、意図を失った心を神様に回復していただきたいと願います。

そして、クリスマスを迎えるために、あなたの汚い心の中にどうやったら彼を招くことができるのか知ってください。彼を招く唯一の方法は、その部屋があることを知ることで。神様は、弱さを知る者に祝福をもたらされるからです。

(要約者: 浅野 恵子)

(2023年12月10日)